

第1章 地形

(米岡佳弥・中澤 努・尾崎正紀)

本報告で扱う千葉県北部延長域は、その大部分が野田市の行政区域と重なり、南東部では一部が柏市域に及ぶ。本地域の西側を江戸川、東側を利根川、南側を利根運河が流下し、三方を河川に囲まれた地理的特性を有する(第1.1図)。本地域には、西から東にかけて中川低地、下総台地、利根川低地が分布する(第1.1図)。

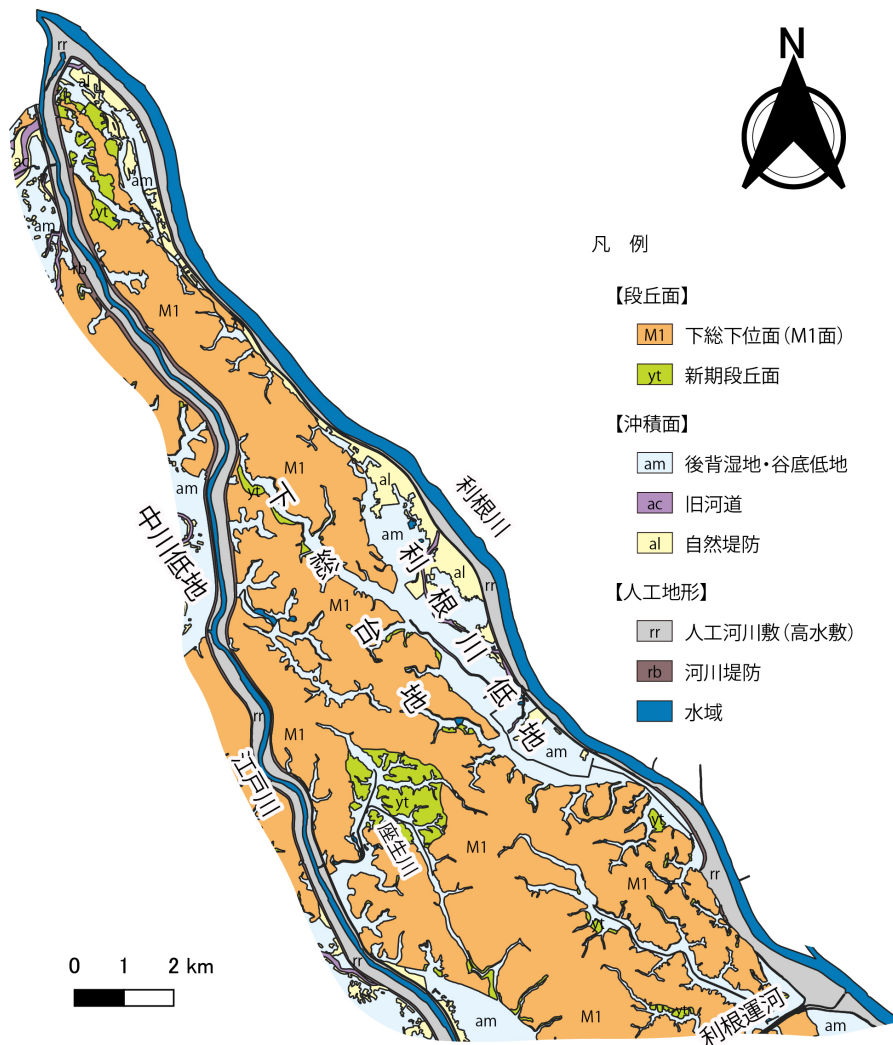
1.1 下総台地

下総台地は千葉県北部に広がる台地であり、本地域は下総台地の北西端に位置する。本地域の下総台地の

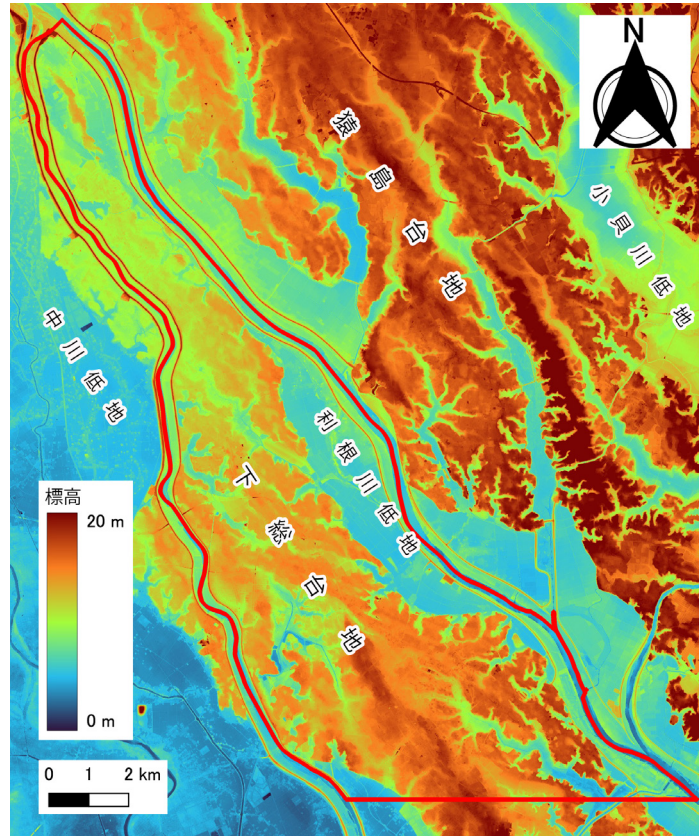
地形面の標高は、南部でおよそ20 m、中部でおよそ15 m、北部でおよそ10～12 mと、北方へ標高が低くなる傾向がみられる(第1.2図)。また、この地形面は高位より下総下位面(杉原, 1970; 納谷ほか, 2018)及び新期段丘面に区分される(第1.1図)。新期段丘面は周囲の下総下位面に比べ標高差がおおよそ2～5 m低く、これにより識別可能である。

1.2 低地

下総台地の西側と東側には、それぞれ中川低地と利



第1.1図 千葉県北部延長域の地形区分図。



第 1.2 図 千葉県北部延長域の標高図。
赤枠は本調査地域の範囲を示す。
段彩図は国土地理院「基盤地図情報 5 m メッシュ (標高)」を使用して作成した。

根川低地が発達する (第 1.1 図)。これらの低地の微地形は、後背湿地・谷底低地、旧河道、自然堤防に区分される。旧河道は河道の変遷を繰り返した跡を示しており、旧河道や現在の河道を取り巻くように微高地である自然堤防が発達する。また、自然堤防の背後には後背湿地、台地を開析する小谷には谷底低地が広がる。

江戸時代以前の利根川低地には大規模な河川は流入しておらず、低地内には常陸川と呼ばれる台地を集水

域とする小規模な河川が流下していたとされる (石橋・松本, 1992 ; 田辺ほか, 2016 など)。その後、江戸時代以降に進められた利根川東遷事業により利根川の流路が段階的に付け替えられ、利根川低地は利根川の氾濫の影響を強く受ける地域へと再編された (石橋・松本, 1992)。その結果、堆積物の供給が増大し、自然堤防の発達や後背湿地の埋積が進行するなど、低地の地形・堆積環境が大きく改変された (石橋・松本, 1992)。